

Ⅱ. 地域の現況と特性

1 現況

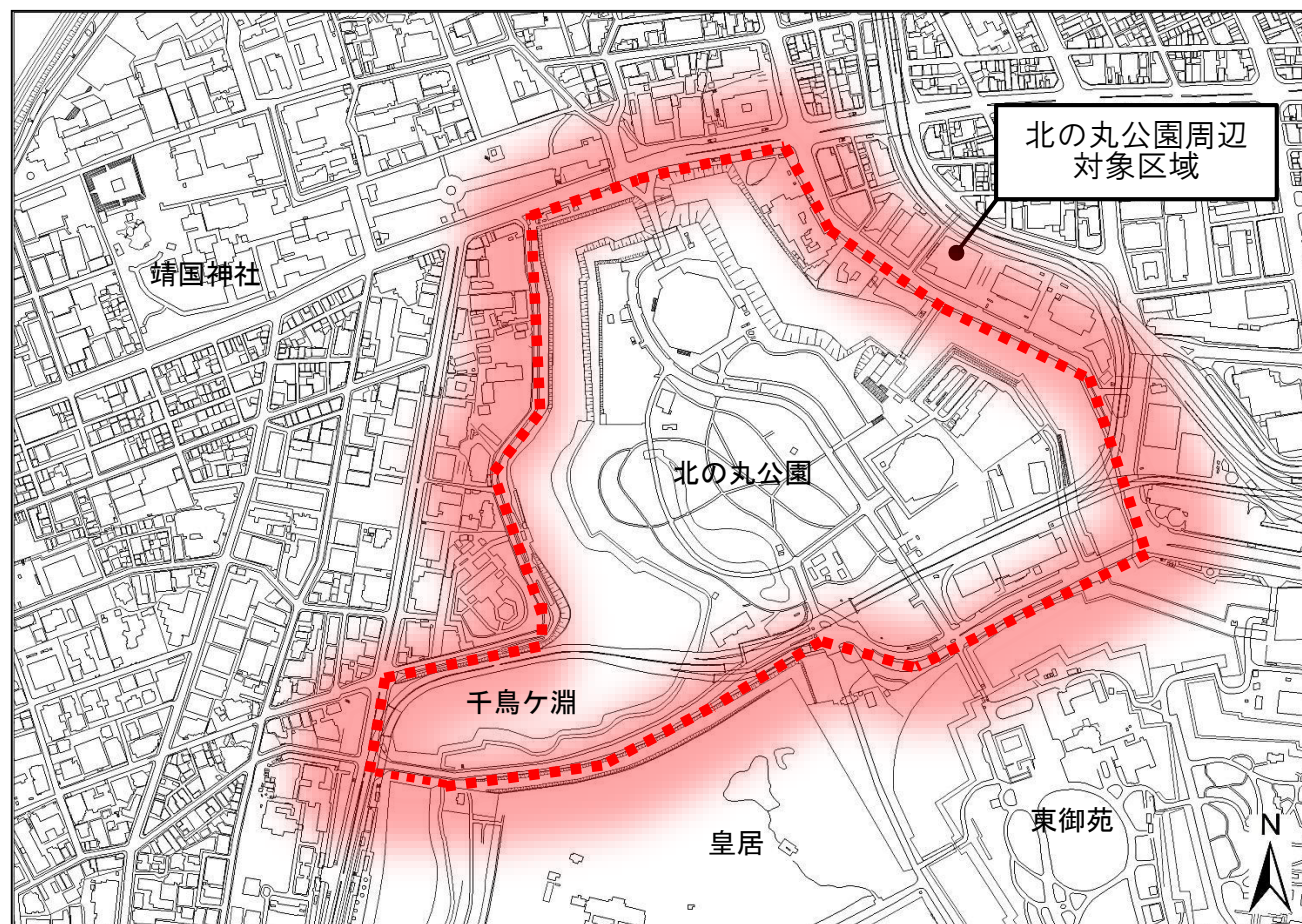
(1) 地域の範囲

北の丸公園を囲む靖国通り、千鳥ヶ淵緑道、代官町通り、内堀通りとその沿道を範囲とします。

【道路の特色】

- ① 靖国通り : 九段坂の歴史性を尊重し、濠を望む通り（都道）
- ② 千鳥ヶ淵緑道 : お濠を望む、「さくら」と「四季の花」の道（区道）
- ③ 代官町通り : 通り西側の皇居と代官町通り土手の緑に覆われた静かな空間と東の竹橋側の濠を望む変化に富む通り（区道）
- ④ 内堀通り : 濠の水辺に近く、石垣が連続する景観を望む通り（都道）

図 北の丸公園周辺地区検討対象区域図



(2) 管理の現状

1) 公共施設の管理者

「九段坂公園」、「旧麹町消防署九段出張所跡」、「千鳥ヶ淵緑道」、「代官町通り」など、区が主体的に整備できる部分が多いです。国、都の管理範囲が接しており、連携が求められます。

図 公園施設管理者の現況

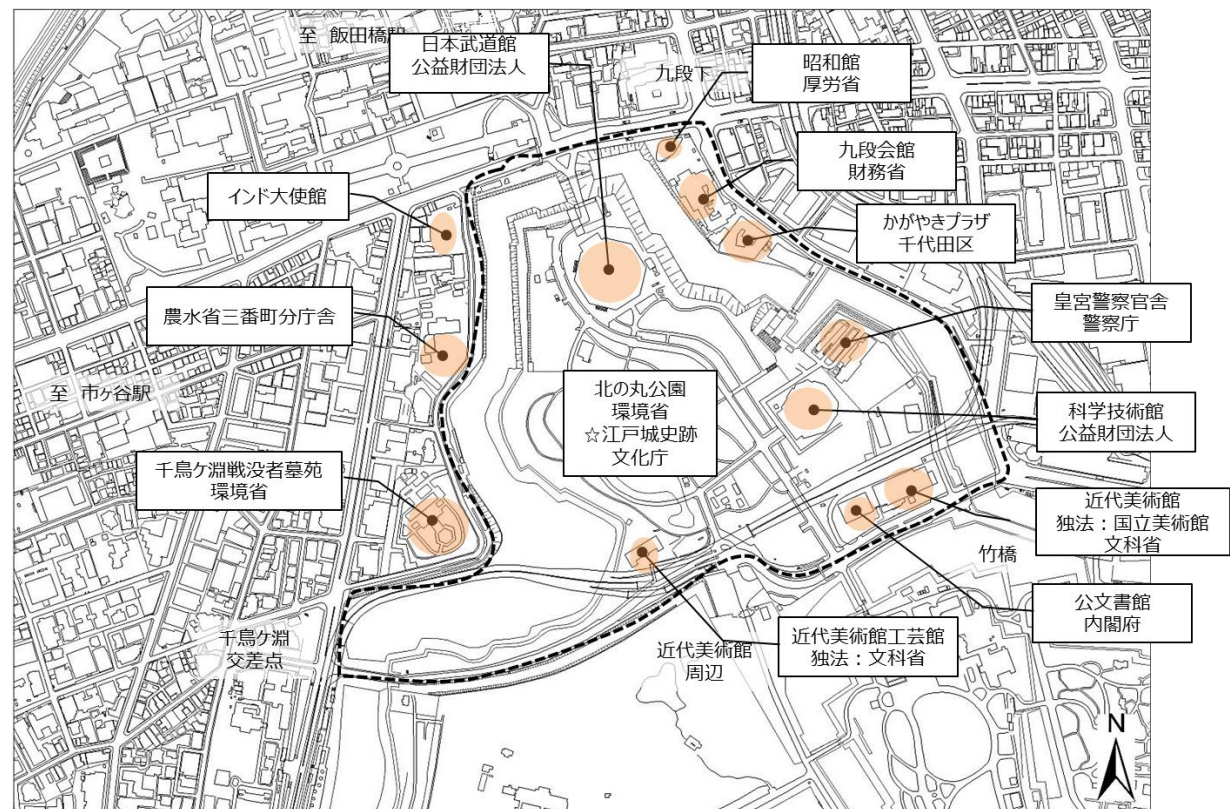


- ※ 1 区立九段坂公園は国有地（財務省所管）
- ※ 2 千代田会館は民間との区分所有
- ※ 3 北の丸公園内の一部施設は他の省庁所管あり（文化庁、警察庁等）

2) 近隣の施設等の状況

近隣には、歴史的建造物や文化施設、スポーツ施設、その他の公共施設が存在します。また、管理者は、多岐に渡ります。

図 公共建築の配置と管理者



2 北の丸公園周辺地域の特性

(1) 上位・関連計画

北の丸公園周辺地域に係る主な上位計画における、まちづくりの視点は、「地域の歴史や自然の資源を活かした風格あるまちづくり」と「歩行者・自転車による移動の円滑化、回遊性の向上」の2つとなります。

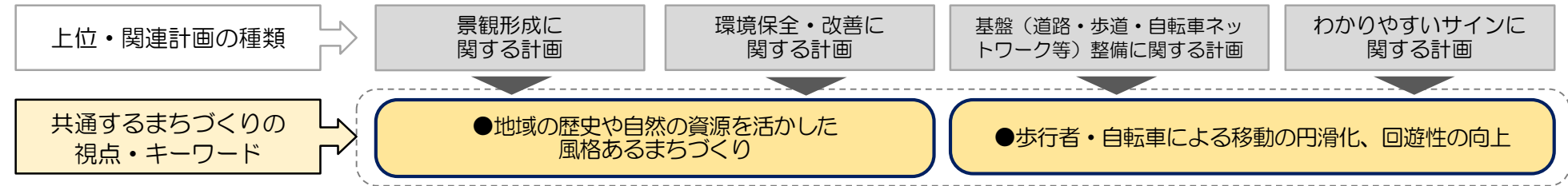


図 上位・関連計画で位置づける北の丸公園周辺の将来のまちづくりの方向性



□本地区における国、都、区による主な上位・関連計画

●皇居周辺道路景観整備計画（平成元年6月、国）

- ・皇居周辺にふさわしい装いを持った道路景観を作り出していくための整備構想及び事業計画

●千鳥ヶ淵環境再生プラン（平成 25 年 4 月、国）

- ・千鳥ヶ淵の水質改善とともに、生物、景観、利用など様々な観点から千鳥ヶ淵の目指すべき将来像とその道筋を示した環境改善に関する構想

●「国内外旅行者のためのわかりやすい案内サイン標準化指針」(平成20年2月、平成27年2月改正、都)

- ・外国人旅行者や障害者、高齢者等の方々が安心してまち歩きを楽しめるよう、わかりやすい案内サインの普及を図るため策定
- ・観光庁が策定した「観光立国実現に向けた多言語対応の改善・強化のためのガイドライン」等を踏まえ、平成 27 年 2 月に改定

●千代田区都市計画マスタープラン（平成10年3月、区）

- ・「歴史に育まれた豊かな都心環境を次世代に継承し、世界に愛されるまち千代田」のまちづくり推進

●区の花さくら再生計画（平成16年3月、区）

- ・区内の桜を守り、次世代に引き継ぐため、エリア別の今後の再生指針を示した計画
- 【皇居北縁部周辺（代官町通り）整備指針】
- ・さくら根系の確保といや地現象の解消

●「公共サインデザインマニュアル」(平成28年3月、区)

●「サインガイドライン」（平成 28 年 3 月、区）

- ・区内に設置されている各種案内表示等（サイン）を計画的に整備していくための「公共サインデザインマニュアル」と、区内民間事業者等が今後サインを整備する際に参考としてもらう「サインガイドライン」を策定・さくら根系の確保といや地現象の解消

●自転車利用ガイドライン（平成 25 年 12 月、区）

- ・区の地域特性を踏まえ、安全で快適な自転車利用の環境づくりを推進するための総合的な指針

(2) 歴史・文化資源の変遷

北の丸公園周辺地域の歴史・文化資源は、江戸城の遺構を骨格に、明治・大正・昭和に建造された建物、施設等が現在まで多く残されています。

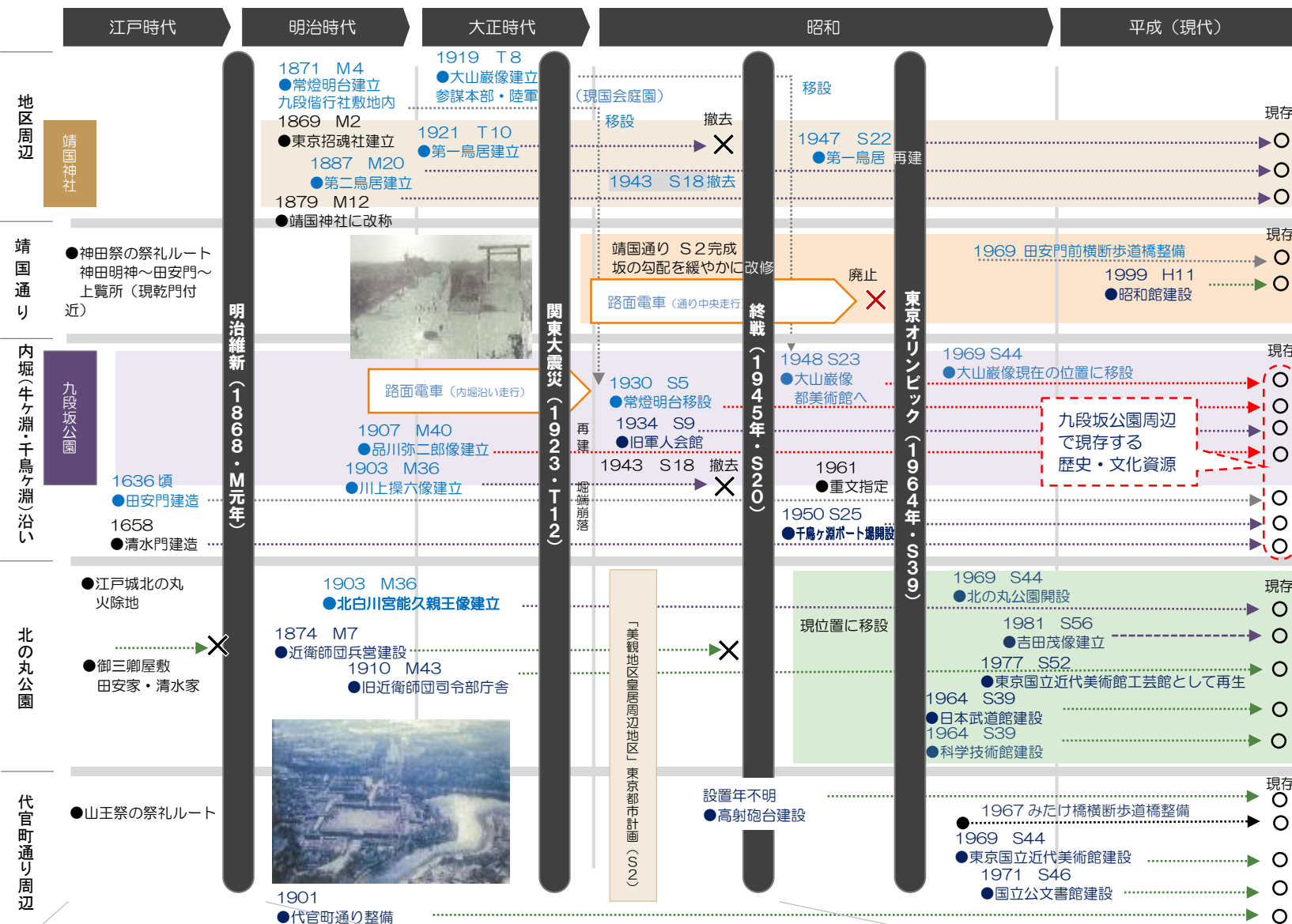


図 本地域における現在の歴史・文化資源の分布状況



□靖国通りの断面変遷について（大正15年～昭和2年）

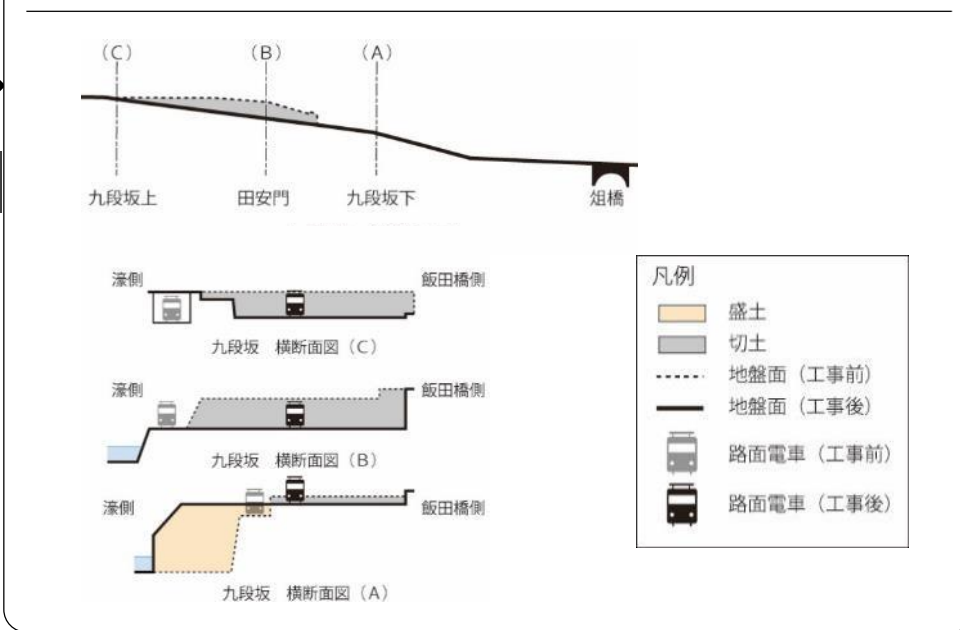
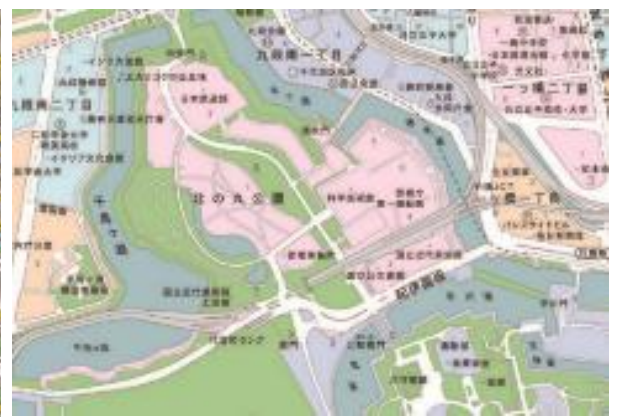
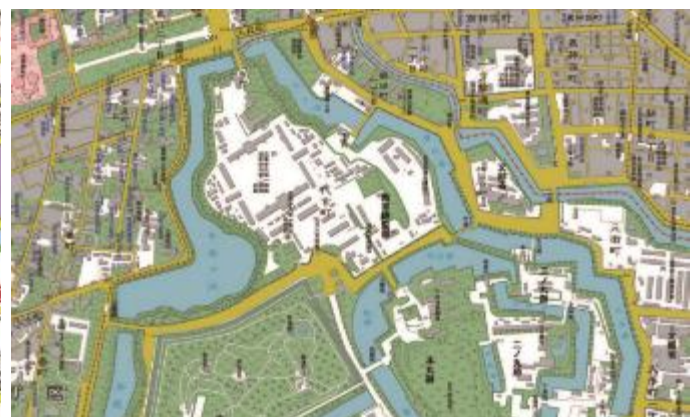


図 歴史及び土地利用の変遷



(3) 景観（眺望等）の状況

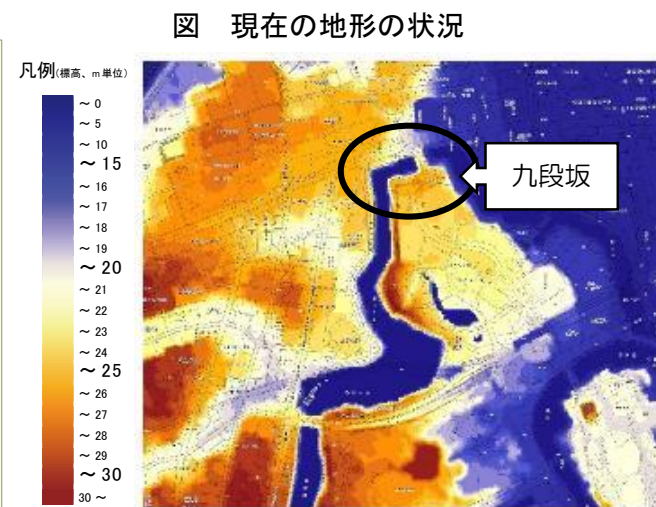
北の丸公園周辺地域の地形は、西側の麹町台地と千鳥ヶ淵を隔てて田安台地があり、東側は日比谷低地が広がっています。主な景観的な要素としては、江戸城の遺構であるお濠と桜並木が特徴といえます。

□地形

武蔵野台地の東端に位置し、九段坂上からはかつて地形に起因する眺望（遠景）が得られました。

○地区の地形

- 徳川家康が江戸に入る前の北の丸周辺地区の地形は、番町地区の沢筋が集まり、蓮池濠を経て日比谷入江に流れこむ地形でした。
- その後、この川は代官町で堰き止められ、田安の台地と吹上の台地をつなぐことで千鳥ヶ淵と下流に蓮池濠が誕生し、竹橋から吹上を通り半蔵門へ抜ける下町日本橋と山手麹町を結ぶ幹線道路が作られ諸人の道筋となりました。
- 千鳥ヶ淵の水位は、番町地区の三つの谷が集まる五味坂のレベルに合わせて、田安門土橋下から牛ヶ淵へ落ちるようになっています。



基盤地図情報 数値標高モデル（国土地理院）より

□眺望景観の変遷

【江戸～明治】近景・中景・遠景

- 九段坂上からは、近景となる壕や靖国神社の鳥居、遠くは富士山、東京湾・房総丘陵までの眺望が得られました。



【現代】近景が主＋スポット的な中景

- 近景となる壕や鳥居など、景観資源自体は昔から変わらないが、樹木や建造物などに視界を遮られるため、眺望スポットは限られています。
- 遠景は、周辺市街地の高層化に伴い、現在では失われている。代わりに、スカイツリーや東京タワーなど東京のランドマークが視認できます。

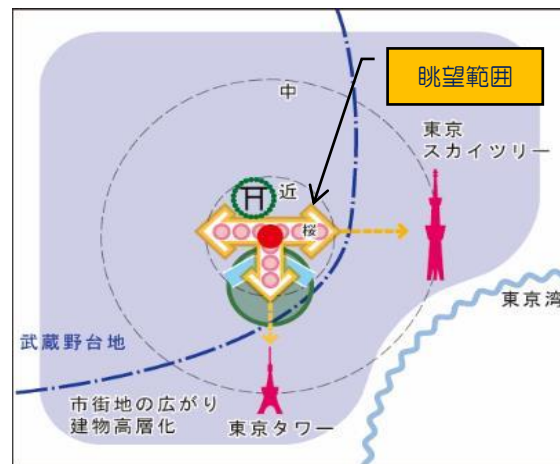
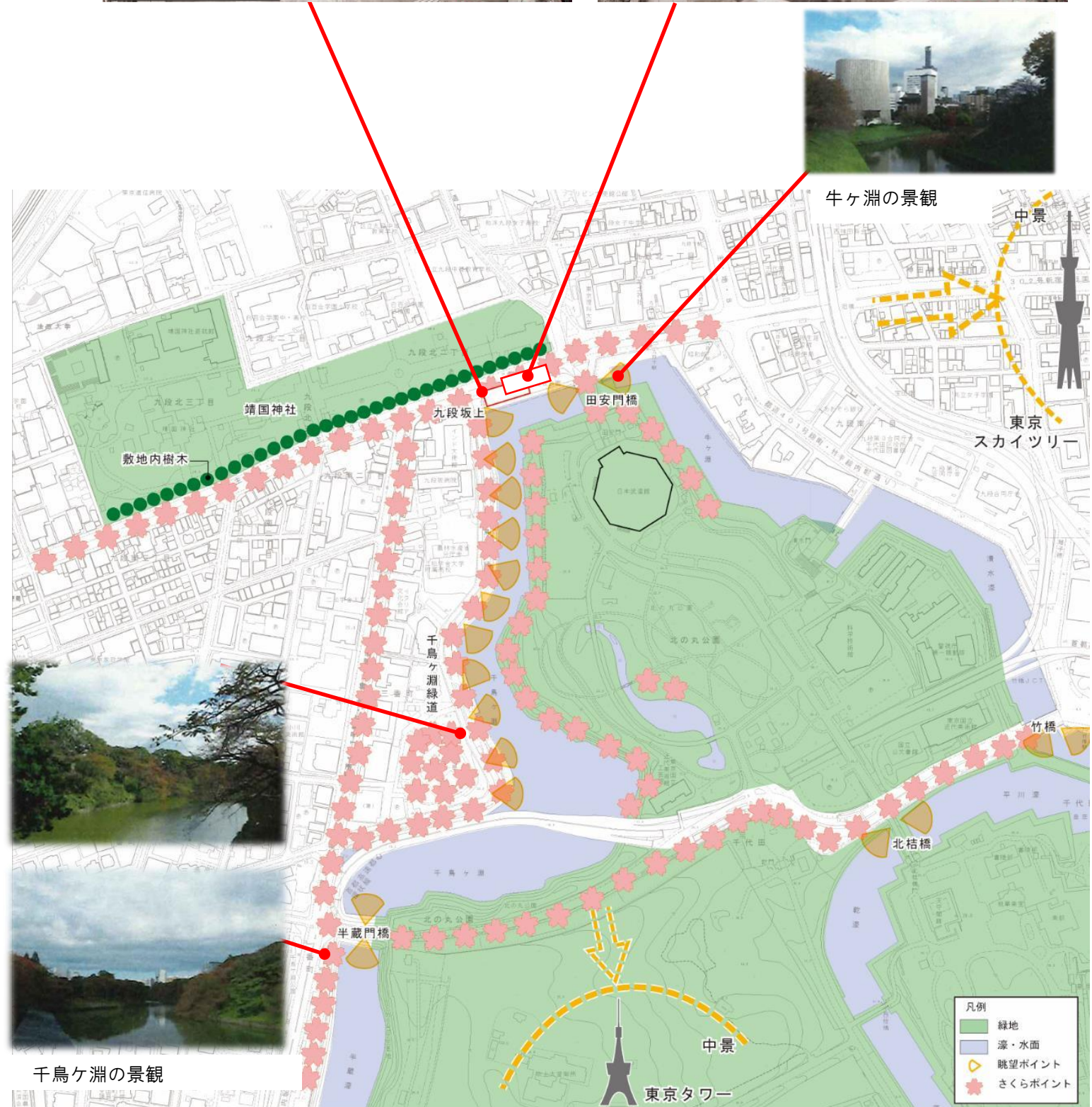


図 本地域周辺の眺望スポット



(4) 歩行環境

北の丸公園周辺地域の歩行環境は、外周部の靖国通り及び内堀通り、代官町通りの歩道、千鳥ヶ淵緑道により一周のネットワークが形成されています。

靖国通りと代官町通りは、東京メトロ地下鉄駅の九段下と竹橋から北の丸公園に向けて、一部、坂や段差が存在します。

北の丸公園周辺の歩行空間には、総合案内板、史跡案内板、方向案内板が設置されています。



①案内板



②史跡案内板[東京都]



③「千鳥ヶ淵さんぽみち」[環境省]



④千鳥ヶ淵緑道



⑤石積みのオブジェ+名称版



⑥千鳥ヶ淵緑道内の公共トイレ[区]



⑦広幅員道路にかかる、みたけ橋の歩道橋



⑧田安門前歩道橋足元(南側)の状況



⑨代官町通りの状況



⑩田安門前歩道橋付近歩道(北側)の状況

図 本地域における歩行環境

